

日本労働年鑑 第27集 1955年版
The Labour Year Book of Japan 1955

第一部 労働者状態

第六編 農家の状態と農民の生活

第一章 農家と農家人口

第二節 農家人口と農業労働力

農家人口

農家にふだん生活している世帯員数は、一九五四年二月一日現在で三七六〇万人(内男一八五〇万人、女一九一〇万人)、前年同期にくらべ、三〇万人(〇・八%)の減少を示している(第254表)。一九五〇年を一〇〇とすると、五四年の指数は九九・七である。わが国の総人口は最近一年間に一三〇万—一四〇万人の増加を示しているのに対し、農家人口は右のように、逆に減少しつつある。このことは農家数の減少とも関係あることであるが農家一戸当りの世帯員数でも、本年は六・一五九人で前年同期(六・一七〇人)に比し〇・〇一一人の減少を来しているから、農家数の減少割合より農家人口の減少割合が甚だしかったわけである。

地域別にこれをみると、農家数のばあいと同様に、大部分の都道府県は減少傾向をとり、これに対し東北諸県、宮崎、富山等農家数の増加した農業県の農家人口がわずかながら増加した。

農業労働力

本年度の農業動態調査では、農業労働に関する調査集計を行っていないので、不完全ながら総理府統計局の「労働力調査」により、農林業従事者数の年間変動をつぎに見ることとする(第255表)。

一九五三年における農林業従事者数は、二月の最低一三二〇万人から六月の最高一九六九万人と、その間六四九万人の差を示している。これは主として農作業の季節的繁閑を反映するものであるが、前年にくらべると、明らかに農林業従事者数の増加がみられる。すなわち一九五三年六月には農林業従事者数は一八五一万人で本年同期は一一八万人の増加となっている。その他の月もおおむね前年にくらべ増加している。農林業労働力数の増減は、工鉱業等非農林業の労働力数と密接な関連があることはいうまでもないが、これら両部門の労働力の全体に関しては第二編第一章を参照されたい。

日本労働年鑑 第27集 1955年版

発行 1954年11月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2001年10月16日公開開始

